

銀漢亭日録



伊藤伊那男

8月20日(月)▼久しぶりに昨夜はクーラーを付けずに寝る。家族六人はようやくスケジュールが合致したようで宮崎県へ夏休みの旅行へ出発。台風が続けざまに来ると心配しつつ。金曜日の夜戻ると。店、環順子さん五名。いよいよ結社誌「パティオ」の創刊と。「演劇人句会」十人。

21日(火)▼「火の会」十一人と久々の人数。松山の結社「樸」の東京支部長、種谷良二、戸田一雄さん来店。種谷さんは私の「井月」本読んで下さったと。屋内松山さん、丁度、松山出身にてお二人と意気投合。「秋麗」の長生子さん。

22日(水)▼高校同期「三水会」五人。水内慶太、松川洋酔さん。阪西敦子さん、京都市立芸大の画家他と四人。皆川文弘さん。一年程前から神保町駅の警備のおじさんと敬礼を交わすようになり、時々話す。マイクをつけたまま「お気を付けて」などと話しかけてくれる。一週間に一度位会うのだが、奇妙な交流。

23日(木)▼「銀漢句会」あと十六人。飯田高校下平さんが友人と六名で。

24日(金)▼大石悦子先生、角川「俳句」立木編集長、滝口百合さん。グラビア撮影の「ランチョン」の帰路と。そうだ！「ランチョン」は石田波郷の縁あり。そこへ水内慶太さん「すし屋の弥助」の鯖ずし持って来て、丁度手配して下さった、だだ茶豆も到着。皆さんで戴く。「天為」の青柳飛さん(米国俳句協会会長)今日、米国から帰国。その足で来店。二十三時過ぎ、早めに帰宅すると家族、宮崎の「フェニックス・シーガイア・リゾート」から戻っていて、一時間ほど報告を聞く。

25日(土)▼娘夫婦と男の子二人は「江戸ワンダーランド 日光江戸村」へ。午後、日本橋「鰯の与志喜」にて「纏句会」十二人。鰯と里芋の煮物、松茸と鰻の子のすり身のお椀、鰻の南部焼、握り。お

守屋明さん。角川書店の北田智広さん、母上の体調不調で急遽伊那へ戻っていた月野ぼなさん参加して二十人ほどで五句出し句会。料理は鯛の塩釜、刺身、秋刀魚の塩焼き、いか煮、豆腐と鶏の煮物……。最後、おろし蕎麦と盛りだくさん。あと大野田さんの友人のラーメン店に挨拶替わりにチューハイ、餃子など。

2日(日)▼雨。七時起き。十時より「信州伊那那月俳句大会」。大野田さん司会。私は最後に選評三分。午後、今泉恂之介氏の講演会。当日句選者の一人は武田花果さん。親睦会あと「門」にて少々飲み、東京へ。車中熟睡。

3日(月)▼降圧剤数日切れていたので「あ・ん・ど・うクリニック」へ。先日血液検査の結果、血糖値基準値を少し上回ったままと。店「かさ、ぎ俳句勉強会」あと十数名。

4日(火)▼大型台風襲来で窓外只ならず。十四時くらいまで様子をみて、本日は「銀漢亭」休業とする。「銀漢」十月号の校正その他雑用。孫の希望で鶏モモのニンニク醤油焼などの夕食。骨休めの一日。

5日(水)▼店、「宙句会」あと十三人。「きならぎ句会」あと六人。駒ヶ根の先輩岩波書店OBの今井さん。

6日(木)▼夜中、北海道で大地震あったと。天変地異多し。店、「十六夜句会」あと十二人。「天為」の日さん泥酔して自宅近くの路傍にうずくまって転た寝。朝、登校する小学生に起こされた。危ない。今もこういう人がいるのだ。教訓として覚えておこう。

7日(金)▼上伊那農業高校OB福沢さん他四人。朔出版の鈴木忍さん。堀切克洋君の愛娘ことほちゃん。このところ私のことをジージ、ジイと呼び、厨房に入ってる。

8日(土)▼時々、運営委員会。十三時、麹町会館にて「銀漢本部句会」、五十三人。あと中華料理店にて親睦会、十数人。あと、中村湖童さんにお招きいただき、姉上、手嶋恵子さん経営の大分料理店「とど」へ。赤坂三丁目。手嶋さんは銀漢会員。かんばちのりゆうきゅう、関サバ、カサゴの刺身など何ともうまい！自家製さつま揚げ何種類も。あら汁など。酒は「両関」。すっかり御

開きのあと、渋谷「鳥竹」に少し寄り、買い物して帰宅。女の子二人にステッキ、茄子と茸のソテー添え。梨のデザートなどの夕食作る。庭師が入り、私の部屋明るくなる。

26日(日)▼快晴。坪井さんに頂いた信州の昼顔うまい。味噌汁、煮物に。終日家。選句。夜、鶏つくね鍋。家族揃う。

27日(月)▼梅田津さんの勉強会四人。阪西敦子さんゲスト。青柳飛さんと天為編集部の方々。三輪初子、飛島蘭さん。池田のりをさんとその友人。

28日(火)▼「萩句会」選句。「ひまわり句会」あと九人。三笠書房の押鐘会長。大野田さん、伊那吟行打ち合わせ。

29日(水)▼屋内松山さん。環順子さん、結社誌「パティオ」創刊号を届けて下さる。お目出度う！「雛句会」九人。

30日(木)▼歯科へ行くと予約日は明日である。内科へ行くと今日から夏休みと。両方共カラ振り。この暑い中、何とも……。店、「問句会」七人。青柳飛さんネット句会の仲間との会のあと六人ほど。

31日(金)▼岩野歯科、奥歯の治療、型取り、クリーニング。店、「金星句会」あと七人。「樸」の種谷さん。堺田さん。十五年振りに金融会社時代の同業者松江純さん来店。

9月1日(土)▼六時五十分、起床。慌てる。いつもは孫の部屋が目覚まし時計を借りるのだが昨夜は無く、自力に頼ったため。血圧の薬も切れており、無理はいけない。新宿発八時のあずさ5号(八時丁度のあずさだが……)そういえば狩人の「あずさ2号」は別れる人にどうして列車名と発車時刻まで伝えるのであるうか。まあいいか、昼、伊那市着。昼食あと、大野田、有賀、高遠句会の神林三喜雄氏の車に分乗して権兵衛トネルを抜けて中仙道奈良井宿へ。一時間散策のあと、木曾義仲の育った日義村へ。巴淵、義仲館、德音寺の義仲の墓、今井兼平、中原次郎の墓、旗挙八幡神社、禪興寺の義仲の墓、山村代官の墓などを巡る。降ったり止んだり雨の中。十七時半、伊那に戻り、ホテルセンビア伊那にチェックインし、十八時、「角八」へ。高遠句会の三浦恵子、

馳走になる。活力のある姉上。

9日(日)▼雑用いろいろ。午後、宮澤と夕食の買い出し。松茸のスキヤキをやることに。家族揃って夕食。

10日(月)▼午前中、エッセイなど。店、「演劇人句会」六人。他、閑散。二十二時閉めて餃子屋で小酌。

11日(火)▼二十時、有楽町朝日ホールにて第五十七回全国俳句大会。当日句選者。二十年ほど前に一度手伝い要員で来た憶えあり。当日句五百句超。特選句三句につき三分で評。店、「火の会」十人。大会あとの小島健大会委員長寄って下さる。

12日(水)▼銀行で打ち合わせ。「樵の葉句会」があることを失念して慌てる。店、予約なし。山田真砂年、金井さん。早仕舞しようとする頃、水内慶太、祐森水香さん他。ヴウクリコで乾杯。

13日(木)▼岩野歯科。奥歯にセラミック装着。出費大。喫茶店にてエッセイ一本。選句。店、「極句会」あと十六人。皆川丈人さんが盤水先生の名前入り原稿用紙沢山出て来たがよかつたら使ってくれと届けて下さる。

14日(金)▼三ヶ月に一度の「白熱句会」。水内慶太、佐怒賀正美、檜山哲彦、木暮陶句郎さん(井上弘美、藤田直子さん欠席)他客無く、私も終始参加。

15日(土)▼十九時より池袋東京芸術劇場シアターイーストにて会員田岡美也子さんのグループの・ぱるのさよなら身終い公演。『蜜柑とユウウツ・茨木のり子異聞』鑑賞。あと小酌。いづみ、展枝、麦さん。

16日(日)▼午後、環順子主宰「パティオ」創刊記念祝賀会。如水会館。ジュビターの間。大高霧海先生と隣席。温かな出発式。

17日(月)▼敬老の日だが家族からは何の言葉もなく、まだ老人とは思われていないか？ 逆に夕飯の仕度を頼まれる。十一月号のエッセイや自句自解。昼寝など。

18日(火)▼店、超閑散。二十時半閉める。近隣の店二軒ほど挨拶廻り。

19日(水)▼伊那北高同期「三水会」五人。